

年頭に あたって

年頭に あたって

下條村長 伊藤 喜平



明けましておめでとうございませす。希望に満ちた新春を迎え、皆様方の御健康と、御多幸をお祈りいたします。

さて、昨年は「光」と「陰」が激しく交錯した年でした。

中でも千年に一度と云われた東日本大震災、想像もしなかった大地震・大津波・放射能漏等で、最愛の肉親・財産等を一舜にして失い、失望と不安の中で生活している人達が居る事を常に認識し、同胞の一人として、一刻も早く希望

のもてる生活に戻れる様努力しなければならぬとの思いです。

今一つの問題点は、以前より心配していた我国の財務状況がいよいよ危険水域に達して来たことです。

新聞やテレビで、抱える債務が今年三月末で、何と千兆円を超すとのこと、単純計算すれば国民一人当たり、八百万円の債務です。今急に発生したのではなく、積年の無責任先送りの政策の結果です。この機に至り、「政治家」が又「官僚」がと批判し、責任の全てを他に求めているばかりでは、何の解決策にもなりません。我々も責任ある国民の一人として、この現実を直視し、徹底的に無駄を省く等前向きに対応する勇氣と行動をおこす事しか解決の道はないものと思ひます。

こうした時ですが、当下條村は長年に亘る全員参加の力強い御支援をいただき、年末にお示した

ピッチが上っています。

これからは、想像を超える大きな変化が訪れます。この機に将来をしっかりと見据え、更に夢と希望のもてる社会の構築に万全を期

すべく、議会・職員・共々頑張ります。

村民の皆様が今年が幸多き年であります様、御祈念しあいさついたします。

がんばれ日本・がんばれ福島

下條村議会議長 宮嶋 清伸



新年あけましておめでとうございませす。

平成二十四年の輝かしい新春を迎え、村民の皆様が議事を代表して謹んで年頭のあいさつを申し上げます。また、日頃は議会活動に対し暖かいご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年三月十一日発生の東日本大震災は映画を見ているような画像がテレビから流れ津波の恐ろしさ、大自然の前では人間は無力な物だと多くの方が感じられたと思ひませす。この大震災による福島第一原

発の事故は未だ収束がみえず、一日も早い復旧・復興を願うと共に、被災された方々にお見舞い申し上げます。

南信州には、中央リニア新幹線のルート決定、三遠南信自動車道の引佐から鳳来までが、本年三月開通予定など着実に地域の発展が近づいてきています。

国・県においては非常に厳しい財政状況下にあり、国の借金が一千兆円を突破し、政府では増税論議がなされ、年金や子ども手当の減額など住民の生活コストが増す中、下條村では、伊藤喜平村長の長年の行政手腕により、昨年の一ヶ月より七十五歳以上の高齢者の医療費自己負担分の半額補助を行い、今年の一ヶ月より七十歳から七十四歳までの高齢者の医療費自己負担分の三割村補助を行い

ます。また昨年より住宅のリフォームを村内事業者により改修した場合、費用の四分の一最高二十万円助成を行い、耐震工事と合わせて八十万円を補助するなど村内事業者にも元氣の出る施策を実施して、住んでいて良かった下條村を進めております。

議会も昨年の改選で、無投票ではありませんでしたが、二名の新人が新たに加わり、十名が一丸となり伊藤村政のチェック機能だけでなく、様々な提案を行う為、勉強会をはじめ各種研修会に積極的に参加して、議員の資質向上に取り組みしております。

本年が皆様にとって平穏で実り多い年でありませすようお祈りして、年頭のあいさついたします。